

地図から読み解く近世の松江市域

京都府立大学文学部

上杉 和央

○地図を使って

- ・ 地図を使った分析

- ①作製をめぐる歴史 例) 伊能忠敬の地図作製
- ②復原研究：描かれる内容から 例) 江戸時代の松江城下町の姿
- ③社会・文化史：描かれない内容も 例) 松江町人の一年

※すべて理解できるわけではない！

- ・ 地図に現れるもの

2005 年、改正文化財保護法の施行→「文化的景観」カテゴリーの誕生

⇒「景観」の窮屈さが浮き彫りに

独語 *Landschaft* に由来する言葉＝可視的な範囲にとどまらない地域性・地域らしさ

⇒地図＝（可視的なものだけではない）地域らしさの一端を理解する素材

○国絵図に描かれるもの

- ・「出雲国」天保 9 年（1838）、国立公文書館蔵 ※国立公文書館ウェブサイトで閲覧可能

おもな国絵図の作製史

国絵図作製事業	開始年	将軍（事業期間中）	備考
慶長国絵図	慶長 9 年 (1604)	徳川家康・秀忠	西日本のみ？
正保国絵図	正保元年 (1644)	徳川家光	城図・日本図
元禄国絵図	元禄 10 年 (1697)	徳川綱吉	日本図
天保国絵図	天保 6 年 (1835)	徳川家斉・家慶	

○村絵図の世界

- ・ 村の暮らし

「上講武村山絵図」文化 13 年（1816） 【図 1】

凡例からみえる地域像

野山に木は生えているか？

上講武村の構造

谷底平野：水田	山麓：集落・街道・裏に櫓畑
谷筋：水田・油桐畑	山地①：草地・茅場＝田付きの山
山地②：草地・茅場＝入会地	山地③：林

⇒地域の環境を最大限に活かした生活

・水辺の暮らし

「島根郡七類浦絵図」天保7年(1836)頃 【図2】

七類浦で意識された景観構成要素

集落の広がり：海岸沿い	田の広がり：中坪輪・小谷輪
畑の広がり：背後の山のほぼ全面	ため池と堰・堤：こもさ堤・魚目堤
山：木が生える山と生えない山	→山の表現への意識
海岸の様子：砂浜・岩礁	ランドマーク：鳥居・堂舎・松
川・道・橋：架橋されている部分は明示	

・「輪」とはなにか？

「一村ノ中、地味ニ随ヒ幾所ニモ区別シ、之ヲ輪ト称ス」(島根県歴史附録 1869)

＝松江藩独自の地区割 ※集落や畑地に「輪」はない。

「輪」の管理

輪切帳：輪の面積・土地柄、年ごとの作柄の増減

輪切絵図：輪の分布を示す絵図 ※現存のものは、郡単位の地図帳形式

輪切絵図の表現内容

「意宇郡村絵図(下出雲郷村)」 「意宇郡村絵図(熊野村)」 【図3】

万延元年(1860) 明治大学図書館蔵(蘆田文庫)

米中心主義の支配体制

地域のシンボル

○松江市街地の表現

・堀尾期・京極期・松平期それぞれに城下町絵図が残り、町絵図(白潟・末次など)も残される。→城下町研究の進展が期待される！

・城下町の景観／地域像？ cf. 国宝天守「だけ」が文化遺産？

「松江四季眺望図」 【図4】

○地図から読む地域

地図の主題＝作者が意図的に描き込んだもの→訴えたい内容

地図の主題の外側＝作者が添えたもの→当時の地域を垣間見る好材料



図1 「上講武村山絵図」文化13年(1816) 島根県立図書館蔵(郡奉行文書)



図2 「島根郡七類浦絵図」天保7年(1836)頃 岐阜県立図書館蔵



图3 意字郡村絵図（熊野村）万延元年（1860） 明治大学図書館蔵（蘆田文庫）

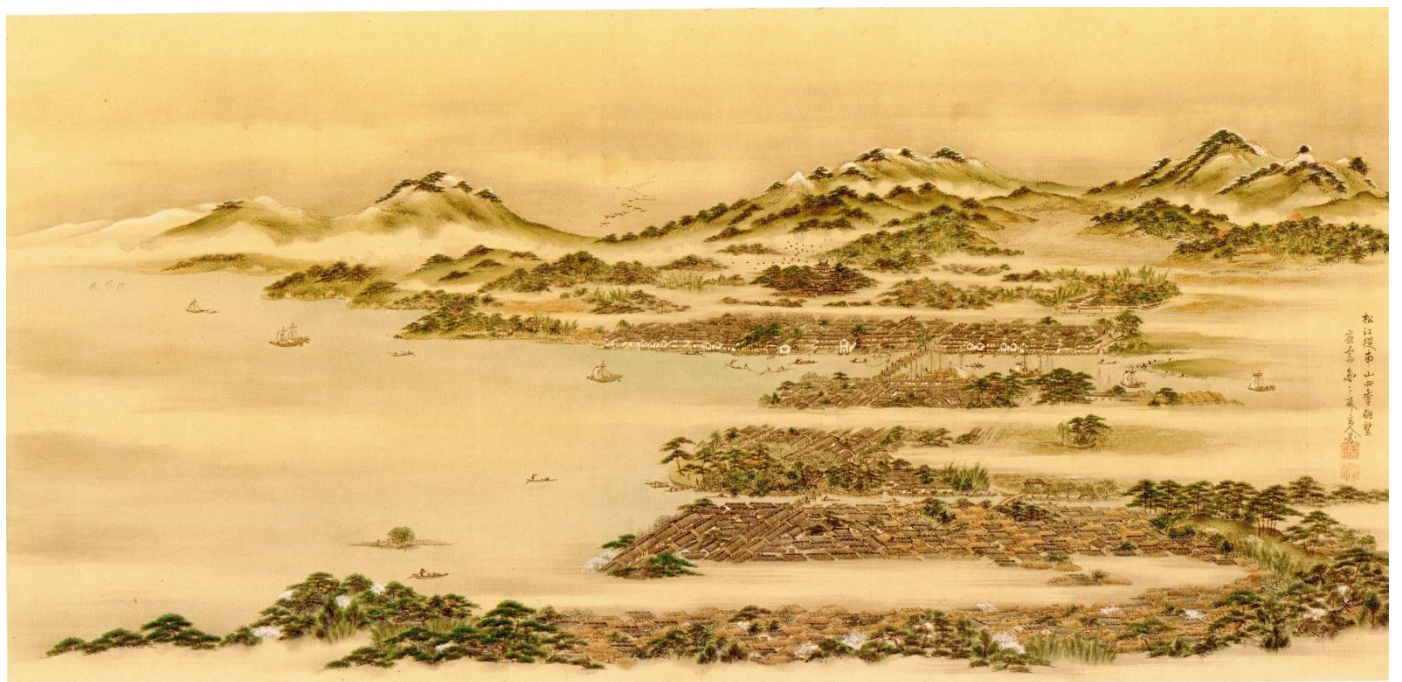


图4 「松江四季眺望図」明治7年（1874）調整 陶山勝寂（1828-77）作 荒木文之助家蔵